

## 教育改革のための国際協働への展望 日本の役割と課題、そしてパートナーシップ発展の可能性

不安定化と不透明性が進む世界の状況の中、与えられた知識の習得中心の学習から未確定状況の中で探究を進め協働して展開を作りだしていく力につながる学習への転換・変革が繰り返し求められてきました。その必要性和緊急性が高まり続ける一方で、しかし、すでに長い伝統を持ち、幾世代の経験の反復によって形作られてきた公教育における学習の基本モード変革の困難さは、改革への企図の積み重ねとその必要性の切迫にもかかわらず、広範な打開には到っていません。

こうした状況の中、教育改革を目指す国々の中で、日本の公教育を支えてきた授業研究・校内研修・特別活動、そしてそれらと密接に関わる教師教育への関心が広がってきています。こうした関心と要請と関わり、JICA の教員研修や教育改革支援の取り組み、文部科学省の EDU-Port ニッポン（日本型教育の海外展開）の施策・取り組みが進められてきています。

こうした取り組みとも関わり福井大学教職大学院では、2007 年に JICA の授業研究を主題とするアフリカ向け教員研修を担当して以来、JICA や EDU-Port の企図と関わりアジア・アフリカの国々との教育改革をめぐる協働を進め、さらに OECD 日本イノベーション教育ネットワーク（ISN）への参画や、2019 年以降エジプト日本教育パートナーシップに基づく EJS（Egyptian Japanese School）教員研修を重ね、エジプトにおける教育改革に深く関わってきました。こうした経験を通して、教育改革、とりわけその基軸となるべき教師教育改革において、改革のための国際協働の意義と可能性、そしてその中で日本が果たすべき役割と課題について改めて討究し、今後の展開を共有する必要性を痛感するに到っています。

本シンポジウムでは、文部科学省で日本型教育の国際展開に携わっておられる大野彰子氏、EDU-Port や OECD 日本イノベーション教育ネットワークなどを通じて日本の国際教育貢献に尽力されてきた鈴木寛氏、さらにエジプトにおける教育改革を牽引する EJS 運営で中心的な役割を果たしておられる Malek Ahmed 氏にご参加いただき、それぞれの企図を共有し、日本における教育改革のための国際協働の現段階を確認しつつ、今後の展望をひらく機会としたいと考えています。

本シンポジウムでの議論と知見の共有が、2025 年 8 月に開催されるアフリカ開発会議（TICAD）にもつながり、さらなる国際協働の起点となることを期待しています。また、私たち一人ひとりが取り組んでいる学習の変革が、国際的な視野においてどのような意味と価値を持ちうるのかを問い直す機会ともなれば幸いです。

登壇者（予定）

文部科学省 大臣官房 国際課長 大野彰子

東京大学 公共政策大学院 教授 鈴木 寛

エジプト教育・技術教育省 エジプト日本学校（EJS）事業管理部長 Malek Ahmed

他